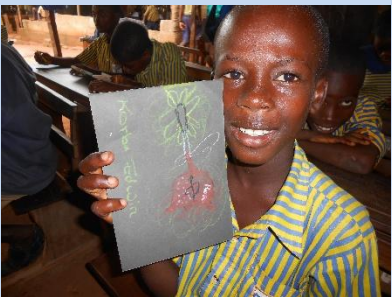
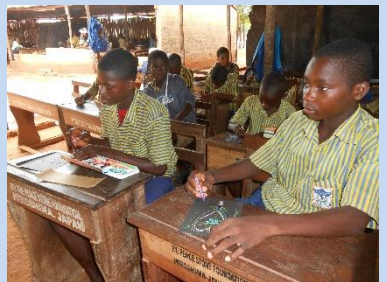


ガーナでお絵描き
くれよん プロジェクト 35号

学校のあるアフィフェ村は、雨が多く降る地帯でもあります。ギニア湾が陸地に入り込んだケタと呼ばれる入り江が有り、その影響で村人にとって恵みの雨もたらされます。雨水が生活用水に使われる村にとって雨は本当に自然の恵み。しかし、雨が降ると、子どもたちは学校に行けない。ということも起こります。各家庭に満足に傘が無いということに加え、徒歩で一時間以上もかかる所からくる子どもも少なくはありません。そうした遠方から来ている子どもたちは、雨が朝から降っていると学校を休むしかありません。久しぶりにお絵かきの授業を行った日もそんな雨の降った日でした。この日、アクラは前日に雨が降ったものの晴れ。学校に着く頃には、雨脚が弱いとは言え「これだと子どもたちの登校率は低いな・・・」そう感じさせる雨でした。予想していた通り。学校に着くといつも賑やかな子どもたちの声があるけれど、この日はとても静かでした。授業を行ったクラスは、クラス5とホーム2。どちらのクラスも子どもは少なかったです。今日はこれだけか？」と聞く私に返ってくる応えは「yes」雨が降ったからね」とこれまた予想していたものでした。子どもが少なくとも元気に授業は始まります。今回のお絵かきは、黒い画用紙に描くことをしました。黒い画用紙だと、どのように子どもたちの描く絵は映えるのだろうか？そんな思いで黒い画用紙にしました。

クラス5のお絵かきのテーマは“花”です。



ホーム2では、テーマを決めずに自由に描きました。



ホーム2の子どもたちは、くれよんの箱に書いてある漢字にとっても興味を持ちました。これは以前“手ぬぐい作り”で、中学生が贈ってくれた書道の字に興味を持ったからでは？と思いました。とても上手に箱に書かれた漢字を真似て書いていました。

黒い画用紙に描かれた絵は、色鮮やかに映えています。子どもが少なく心寂しい教室でしたが、そこに描かれた絵は寂しさも吹き飛ばすほど元気が溢れていました。

報告2014年6月3日 TOSHIO



協賛 ペンてる株式会社様(ずこくクレヨン)